

シンポジウム「恋愛」 趣旨

——第92回日本社会学会大会——

研究活動委員会担当委員 小林盾（成蹊大学）

このシンポジウムの目的は、恋愛が現在どのような状況にあるのかを、多様化しつつあるライフコースやライフスタイルのなかに位置づけて、多角的に検討することにあります。振りかえれば、日本社会では恋愛結婚が一般化し、恋愛が結婚の前提となりつつあります。一方、婚外子が少ないため、結婚が出産の条件となりかねません。その結果、多様化とは裏腹に、ともすれば「恋愛の壁」「結婚の壁」「出産の壁」の3つを乗り越えてはじめて、子どもをもてるのかもしれない。

恋愛とは、では、これまで歴史のなかでどのように形成されてきたのでしょうか。現在の恋愛は変貌しつつあるのでしょうか。人びとは平等に恋愛しているのでしょうか。これからの社会で、恋愛の役割が変わり、その結果結婚や出産のあり方も変容するのでしょうか。支援の必要な人のために、どのような政策提案ができるのでしょうか。

これらの謎にチャレンジするために、このシンポジウムでは計量研究、歴史研究、家族研究、フィールド調査といった多元的な視角から、恋愛という複雑な現象にアタックします。報告者には「これからの恋愛がどうなるか」「どうなるべきか」について、当たり障りのないことより、たとえ偏っていても、大胆で攻めたメッセージを提言してほしいと依頼しました。

当日は、したがって、予定調和的に進行するより、「そんな見方もあるのか」「本当だろうか」と発見や論争の場となることを期待しています。フロアとの対話を通し、最終的に豊かな未来のためのメニューが増えることを目指したいと思います。なお、このシンポジウムは科研基盤研究（A）「少子化社会におけるライフコース変動の実証的解明」（小林盾代表）との共催であり、その成果の一部である小林盾・川端健嗣編『変貌する恋愛と結婚』（2019年、新曜社）をベースラインとしています。

- 1 「変わりゆく若年層と恋愛——計量研究の視点から」 三輪哲（東京大学）
- 2 「恋愛の価値は、もうなくなったのか？——歴史研究の視点から」 木村絵里子（日本女子大学）
- 3 「分解し、バーチャル化する恋愛——家族社会学の観点から」 山田昌弘（中央大学）
- 4 「「評価されない彼女たち」の恋愛——フィールド調査の視点から」 鈴木涼美（文筆家）

討論者：今田高俊（統計数理研究所）

司会：小林盾（成蹊大学）、川端健嗣（東京女子大学）